

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あさひ )

事業所番号	0690700117		
法人名	十和建設株式会社		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	山形県鶴岡市八色木字西野335-5		
自己評価作成日	平成28年 11月 日	開設年月日	平成24年 3月 7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新たな理念に基づき、入居者の方が一日一日を自分らしく暮らせるように、できることやりたいことは職員と一緒にしております。掃除や食事作り、藤島地区の4事業所合同でオレンジカフェの開催や地域行事への参加など、役割や、かわりを持っていただける支援を行っております。ウッドデッキでは外気浴やレクリエーション、気分転換やユニット間の交流の場になっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

普段の生活の中で職員が利用者の声にじっくり耳を傾け、「できること・やりたいこと・好きなこと」を見つけ出し、一人ひとりに合ったケアを提供することで「利用者の話をたくさん聞いて、自分らしく暮らせるよう支援します」という理念の実践に取り組んでいる。地域との交流にも積極的に取り組んでおり、家族・地域住民・子供達を招待する「地域ふれあい交流会」や藤島地区の合同オレンジカフェ等を通して親睦を深め、馴染みの関係づくりに努力している。年間研修計画に基づき、実務に即した内部研修会を毎月開催しており、職員が2人1組で準備から講師まで担当することで、より深い知識が身に付くと同時に全職員のスキルアップにも繋がっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成28年12月22日	評価結果決定日	平成 29年 1月 16日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しくなった理念を事務室、廊下、トイレなど目のつきやすい場所に掲示している。	実務と結びついた新しい理念を職員が作成し、目につく場所に掲示し、折りに触れて振り返りを行っている。利用者のできること・やりたいこと・好きなことを見つけ出し、一人ひとりに合ったケアを提供することで「利用者が自分らしく暮らせるよう支援します」という理念の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、地域行事への参加、オレンジカフェの開催を行っている。地域の活動センターにて、ご家族様や施設、町内の方との交流会を開催している。	町内会に加入し、地域の夏祭りや小学校プール大会の応援に参加したり、事業所主催の地域ふれあい交流会に地域の人々を招待するなど地域との馴染みの関係づくりに努めている。また、藤島地区の合同オレンジカフェを開催したり、認知症サポーター養成講座に参加するなど地域貢献にも取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、交流会などで事業所での活動などを報告、情報交換をしている。また、認知症サポーター養成講座に参加している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所、入居者様の状況、サービスや行事の様子を報告し、意見をいただいたり情報交換を行なっている。	市職員、介護相談員、民生委員、老人会、婦人会、家族等が参加し、併設事業所と合同で2ヶ月に1回開催されている。事業所から運営状況・行事予定・研修内容等について報告され、情報提供や双方向の意見交換が行われ、サービス向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>毎月介護相談員に訪問していただき、意見やアドバイスをいただいている。</p>	<p>定期的に来訪する介護相談員と時折昼食をともにし、意見やアドバイスをいただいている。運営推進会議・藤島地区の合同オレンジカフェに参加してもらったり、市介護事業所連絡会に参加するなど、日頃から協力関係を築くよう努めている。利用者に係る諸問題等は窓口と連携を図り協力して解決に向け取り組んでいる。</p>		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>入居時、ご家族様、ご本人に説明し、危険のある方はその都度、個々にあった対応をしている。また、身体拘束をしないで対応できるように工夫や取り組みを、職員間で話し合っている。</p>	<p>内部・外部研修会を通して身体拘束禁止を職員に徹底しており、職員は禁止の対象となる具体的な行為や弊害について正しく理解している。帰宅願望の利用者に対しては兆候を察知し、見守り・寄り添いにより気持ちを落ち着かせている。また、危険につながる行為が予見される場合はカンファレンス等で話し合い、転倒防止用のセンサーマットの使用等により安全を確保するとともに不適切な対応がないよう努めている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員会議やケース会議で、内部研修を行ったり、話し合いを設け防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在利用を進めようとしている方がいるため、今後勉強会を設ける予定。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に十分な説明をするように心がけている。疑問などがあれば随時受け付けており、改定が必要な場合は説明、同意書をいただいている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の実施や定期的なお便りの発行を行っている。要望などが全職員に伝わるように会議で報告したり、申し送りノートや、意見箱を活用している。	家族会を設置し意見を聞く機会を設けている。行事・面会等の際に家族が気軽に話ができる環境づくりに努めている。また定期的に介護相談員の来訪があり、利用者や職員との懇談を通して外部に意見を表す機会が設けられている。いただいた意見や要望は会議で職員に周知するとともにサービス向上に繋げている。		
11		○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議や職員会議で話し合い、意見を出し合ってもらい、反映に努めている。また、代表者との会議にて、報告などを行っている。			
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や自己評価シートを活用し、勤務状況等を把握している。また、職員が働きやすいように業務改善などを行っている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や、個々にあった研修の機会を確保している。また、復命報告にて共有し、サービスの向上に努めている。	自己評価シートを活用し管理者面談を行い、職員の力量の把握に努め、アドバイスをを行うなどして働きながらのトレーニングを実践している。また、目標達成計画に基づき年間研修計画書を作成し、毎月実施している。実務に即した内部研修会では職員が2人1組で準備・講師を担当し、知識習得に取り組み、全職員のスキルアップに繋げている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	鶴岡市介護事業所連絡会、交換実習、交流会などに積極的に参加している。	県グループホーム連絡協議会、市介護事業所連絡会の研修会・交換実習、藤島地区の合同オレンジカフェ等の会合を通して情報交換・交流に努め、ネットワークを築きながらサービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や思いを聞き、不安などを取り除くように努めている。普段のコミュニケーションから観察などし、職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、ご家族様の要望や思いの聞き取りを行い、不安を取り除くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、本人、管理者や相談員を含め話し合い、その方にあった支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に創作物を作ったりしながら、本人ができることややりたいことを見出している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や来荘時には近状を報告している。受診の際には情報提供書を作成し、ご家族様、医師と情報共有し連絡を密にしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人とのかかわりの中で、馴染みの人や場所を思い出してもらおうようにしてる。また、知人などの方に面会に来ていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を尊重し、入居者同士良い関係でいられるように職員間で情報共有しながら、日々の活動に参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご家族様や相談員と連絡を取ったり、相談を受けている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、普段の生活での聞き取りやケース会議などで話し合いを設けている。	普段から利用者の声に耳を傾け、介護記録に記録しながら利用者の思いや意向の把握に努めている。また手作り創作品の作成等生活支援の中で、表情・仕草・気づき等から声にならない声を汲み取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様、面会に来ていただいた方などに以前の様子を聞きながら、支援に取り入れている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の好きなことややりたいことをくみ取ったり、様子から探ったりしており、職員間で共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の意見を取り入れながら、毎月一回のケース会議などで、職員間で意見を出し合い問題解決に努めている。	3ヶ月毎にモニタリング・評価を繰り返すし、状況に変化があった場合に計画の見直しを行っている。見直しにあたっては、利用者の思いや家族の意見を取り入れ、会議等で意見交換しながら利用者一人ひとりの現状に応じた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化を申し送りやケース記録に記入し、職員間で共有している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を行っており、毎月、介護相談員の受け入れを行っている。訪問時はみなさん楽しそうに過ごされている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院時、往診時に情報提供書を作成し、医師からの指示などを、ご家族様、職員間で共有している。	かかりつけ医を継続し、原則家族が通院介助を行っている。受診の際は日頃の様子、体調、バイタル等を記載した情報提供書で医師に情報提供を行い、それに受診結果を記載している。変化があった場合は電話で家族に結果を報告し、共有している。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診やかかりつけの看護師に近状を報告、相談し、その指示に従い健康管理に全職員が務めている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や医療機関、地域連携室、ご家族様等と連携し、速やかに、細やかに情報交換をしている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針を説明し、同意を得ている。重度化した場合も本人、ご家族様、医療機関と連携をはかりながら支援している。	利用開始時にできること・できないこと、看取りは対応しないなどの方針について説明し家族の同意を得ている。重度化した場合は、利用者・家族・主治医・職員で話し合い、方針を確認し、共有しながらチームでの支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、全職員が周知できている。消防署の指導の下心パオ組成などの訓練も実施している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定で入居者参加の避難訓練を実施している。	併設事業所と合同で、消防署及び町内会の協力を得て災害訓練を年2回実施している。事業所独自の訓練も毎月実施しており、利用者と職員が防災施設に出向き、災害体験・勉強会を行っている。また近くを河が流れていることもあり、地域防災活動センターと協議しながら適切な避難場所について検討中である。法人による備蓄もあるが、内容・量等の見直しを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、接遇や声掛けには十分注意を払っている。個人情報保護とプライバシーについては内部研修を行っている。	利用者の人格を尊重し、一人ひとりの生活歴・性格に配慮し、その人らしい生活が送れるよう支援している。また、接遇研修会を通して職員に周知するとともに、職員間で注意し合い、話し合いながら不適切な対応がないよう努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定できるような声掛けを行っている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや希望を尊重し、その人に合ったサービスを提供できるよう心掛けている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族様の希望に沿うような整容を行っている。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで、職員と一緒に支援している。また、嗜好や希望、栄養バランスを考えた献立作りを行っている。	献立は職員が利用者の希望を聞き、栄養のバランスを考えながら作成している。3食とも事業所内キッチンで調理し、食事の準備から後片付けまで利用者と職員が一緒に行い、職員も同じ食卓につき、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しんでいる。また、行事食・外食・出前・おやつ作りなどで食事のアクセントにも配慮し食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を実施している。既往歴や様子によって月二回の測定を実施している。食事が進まない方には、食べやすいように、形態を工夫したりハイカロリージュースを取り入れている。		
41		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせ口腔ケアを実施している。		
42	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄の状況を把握している。声掛けや誘導が必要な方には、個々に合わせ支援している。	健康と介助をテーマに内部研修会を実施している。排泄チェック表を活用し、適時声掛け・誘導により排泄を支援している。おむつ使用の利用者もトイレに誘導し、便座に座ってもらうことで排泄を促すなど排泄の自立に向けた支援を行っている。	
43		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を多めに行い、毎日歩行運動を行っている。また、食事は牛乳や野菜、ヨーグルトを多く取り入れている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけ本人の希望を確認して夕方の時間に入浴している。	利用者の希望に沿って2日に1回程度の入浴を支援している。入浴拒否の利用者に対しては声掛け、入浴剤の使用、気の合う利用者同士での入浴等工夫をしながら対応している。入浴は利用者と職員の会話の時間にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後はほとんどの方が、自室で休息される。眠れないという方にはリビングにて創作物や談話を楽しませている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を確認し、処方された際には申し送りを行っている。変化があれば記録や申し送りを実施している。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活力、希望を活かしてできること、食器拭きや、掃除、洗濯畳などを見守り、支援している。日中は毎日レクリエーションを実施している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事へ参加している。また、ドライブや散歩などで気分転換を図っている。他にも、買い物や図書館への個々の外出も支援している。	地域行事への参加、季節のドライブ、近隣の散歩、買物、自家菜園での畑仕事等戸外に出る機会を確保している。広いウッドデッキでは軽体操、日光浴、お茶会等を楽しんでいる。家族の協力を得て、外食、外泊、墓参り等も支援している。また併設するグループホームの利用者と交流する機会も作られている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と同行して買い物へ行ったり、管理が難しい方は家族様の協力を得てトラブルのないよう、支援している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、手紙の投函、家族、友人からの電話の取次ぎなど、希望に合わせ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日に数回清掃し、清潔保持を心掛けている。リビングや廊下には季節を感じてもらえるよう装飾を施し工夫している。	利用者と職員と一緒に掃除を行うリビングは、温度湿度が適切に保たれ、明るく清潔に管理されている。利用者の作品である刺し子や利用者と職員の共同作業によるちぎり絵・まるめ絵等の手作り創作品がセンスよく飾り付けられている。作品からは季節感が漂い、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士テーブルを囲んで、トランプや談話などができるよう支援してる。ソファに一人で座りテレビ鑑賞、裁縫を楽しめるかたもおり、思い思いに過ごされている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやたんすなどを持ち込むことができる。馴染みのものや家族の写真などを飾り、居心地の良く、その人らしく過ごせるように配慮している。	テレビ・馴染みの家具・家族の写真等を持ち込み、好みの飾り付けを行うことで自宅と変わらぬ環境で居心地よく過ごせるよう工夫している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している				